

小・中学生の医療費助成

東京・多摩地域、島部で

大幅拡充

東京都議会公明党の粘り強い取り組みにより、あす10月1日から小・中学生を対象とした都の医療費助成(義務教育就学児医療費助成制度)が拡充される。これにより、多摩地域、島部のうち通院費の2割が自己負担だった26市1町2村が一齐に、1回の受診に付き「200円まで」に大幅軽減される【表参照】。今回の措置により、都内すべての自治体では小・中学生の医療費が負担軽減されることになり、子育て世代の親たちから、喜びの声が上がっている。



子育てに励む母親たちと喜び合う町田市議会公明党のメンバー

今回助成が拡充された自治体

区市町村	通院費	所得制限
八王子市	200円	あり
立川市	200円	あり
武蔵野市	無料	なし
三鷹市	200円	あり
青梅市	200円	なし
府中市	無料	なし
昭島市	200円	あり
調布市	200円	あり
町田市	200円	あり
小金井市	200円	あり
小平市	200円	あり
日野市	200円	あり
東村山市	200円	あり
国分寺市	200円	あり
国立市	200円	あり
福生市	200円	なし
狛江市	200円	あり
東大和市	200円	あり
清瀬市	200円	あり
東久留米市	200円	あり
武蔵村山市	200円	あり
多摩市	200円	あり
稲城市	200円	あり
羽村市	200円	なし
あきる野市	200円	あり
西東京市	200円	なし※1
瑞穂町	200円	あり
青ヶ島村	200円	あり
小笠原村	200円	あり

多摩地域

島部

※1 来年3月末まで
注: 23区と上記以外の町村は、すでに実質無料化されている。

「通院費200円は本当にうれしい」と喜びいっぱいで語るのは、中学2年生と小学2年生の子どもを持つ木村たまよさん(町田市在住)。3歳から発症した長男のアレルギー性鼻炎の通院費だけで、年間約2万4000円も負担していた。「長男の鼻炎以外でも病院にかかることがあるので、子どもの医療費は大変でした」という。

「これまで2割負担だった。その上で、23区や一部の町村では、自己負担分も独自に全額助成することで、すでに無料化されていた。ただ、

医療費助成の地域格差は以前から問題視されており、特に多摩地域に住む多くの子育て家庭から、自己負担の軽減を求める声が上がっていた。あすからの制度拡充には多くの自治体で原則、国の児童手当と同様の基準が設けられているが、福生市と西東京市では、

「これまで2割負担だった。その上で、23区や一部の町村では、自己負担分も独自に全額助成することで、すでに無料化されていた。ただ、医療費助成の地域格差は以前から問題視されており、特に多摩地域に住む多くの子育て家庭から、自己負担の軽減を求める声が上がっていた。あすからの制度拡充には多くの自治体で原則、国の児童手当と同様の基準が設けられているが、福生市と西東京市では、

あすから通院費200円へ

日野、町田、立川市など26市1町2村で一齐に

京市では、